

IV 講演

③『広島大学における就職状況とキャリア支援について』

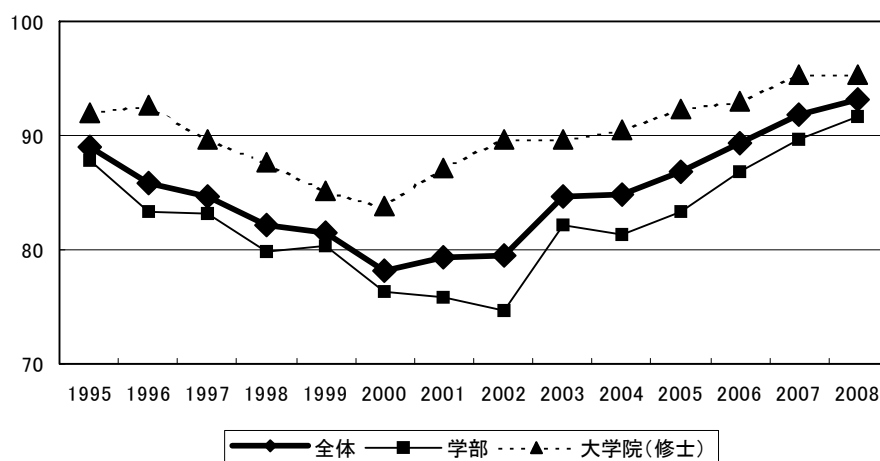
広島大学 キャリアセンター長
教授 松水 征夫

ただいまご紹介いただきました広島大学キャリアセンターのセンター長をしております松水と申します。学生の就職支援・キャリア支援を担当しています。

○最近の本学における就職動向について

平成10年の5月に学生就職センターが国立大学の中で最初の就職支援を担当する部署として立ち上がりましたが、平成16年の法人化とともに、3年生・4年生への就職支援だけではなくて、大学に入学して卒業するまでの進路選択とか職業選択を含めて、就職支援からキャリア支援まで広く指導するためのキャリアセンターに改組・拡充されました。

最初に、過去における本学の学部卒業生、大学院の博士課程前期、いわゆる修士課程の就職率の推移を紹介させていただきたいと思います。



上図の細い実線が学部の卒業生の就職率を示していますが、14年前の1995年にはほぼ90%に近い状況にあったわけですが、その後、バブルが崩壊しまして、どんどん下がっていき、2002年度には75%まで就職率が下がりました。そのときには、卒業生の就職希望者のうち4人に1人は

就職できないという非常に厳しい状況になっていました。

その後、徐々に景気も回復して今年の3月卒業生の場合、就職希望者の90%以上が就職できるという、もとの状況に戻ったということでございます。

上図において点線で示されています大学院の修士の場合は、学部生に比べると非常に高い就職率になっていますが、キャリアセンターでは両者を合わせた太線で示されている全体の就職率の趨勢を特に注目して支援しているところであります。

就職率が非常に厳しい時代には、学生就職センターはできたけれど就職率は一向に改善しないではないかというご批判をしばしばお聞きしましたが、逆に、今度は就職率が改善すると、景気がよくなれば就職率はよくなるのであるから、別にキャリアセンターは必要ないのではないかという意見も聞かれ、就職率が悪くても良くなってもいろいろ言われるという非常に損な役回りをしているセンターでございます。日本の各大学は最近になって、キャリア支援、キャリア教育に力を入れているわけですが、本学の場合は11年前にそういうキャリア教育の必要性を認識して立ち上がったところでもあります。

本学の場合、入学者のうち広島県内の出身者がやっと3割を超えたところであります。かつては広島県内の出身者が8割を超えていた時期があるわけですが、大学入試センター試験が実施されるようになり、「入れる大学」に受験生を高校側も送りだされるということで、必ずしも県内の高校ではなくて、県外の受験者が多くなりまして、一昨年までは広島県内出身者は20%台だったわけですが、昨年4月の入学者は初めて3割を超したという状況でございます。

大学側も地元の高校生の入学に力を入れて、いろんな高校等に説明に行っておられるのですが、特に入学センターはそうした努力をされているわけですが、残念ながら卒業生の進路を見てみますと、学部の卒業生のうち、関東・関西地域に行った者が学部ではちょうど41%ということになっております。中国地域は36%ということで、中国地域よりは関東・関西のほうが多いということです。大学院になりますとさらに関東・関西へ集中しておりまして、両者を合わせた就職率では、関東・関西へ50%の学生が就職しているという状況でございます。これは若者の都会志向が非常に強いということの反映であると思いますが、地元の企業からは、地方大学として広島大学はもっと地元人材を供給してほしいという声を聞きます。

○障害を有する学生の就職支援について

本日は障害を有する学生の就職支援ということですので、障害を有する学生の就職状況がどのようになっているかということで報告をさせていただきます。

実はキャリアセンター、あるいは学生就職センターも含めてになりますが、従来、障害を有する学生を意識した就職支援と申しますか、キャリア支援は行っていませんでした。どの学生が障害を有する学生かという認識ができていなかったからであります。

先ほどアクセシビリティセンターの佐野先生からご紹介がありましたように、本学の場合には修学を支援することを学生が申し出た場合に、どの学生が障害を有する学生かということがわかるわけがありますけれど、残念ながら学内でそういう障害を有する学生の情報が共有されていませんでした。授業を受ける際には、授業担当の先生に障害を有する学生の情報が伝えられるのですが、就職支援を担当する部署にはそういう情報が伝えられていなかったという問題があります。それではいけないということで、もう少しアクセシビリティセンターとキャリアセンターが一緒になってできることはないだろうかということで、今年度から何ができるか検討を始めたところでございます。

今回、アクセシビリティセンターのセミナーに我々キャリアセンターが参加させていただいた1つの経緯は、そうした障害を有する学生のニーズに応じた支援をするために、どんなことができるかを我々のセンターも考えたいということでもらっていただいたわけでありまして。従来は、修学支援を申し出た学生がボランティア活動室、あるいはアクセシビリティセンターのほうでいろいろ指導していただいていたということで、キャリアセンターのほうに特に支援を申し出たというケースがなくて、我々も障害を有する学生がどういう就職状況になっているのかというデータを持っていなかったわけでありまして。

そこで、アクセシビリティセンターのほうに問い合わせた資料によりますと、平成12年度以降、修学支援を申し出た学生が毎年2名から5名ぐらいいるわけでありまして、視覚障害、あるいは聴覚障害、運動機能障害等のある学生の就職状況について教えていただいたわけでありまして、修学支援を申請した学生のほぼ100%が就職をしているという状況がわかりました。

卒業後の進路としては、大学院に進学した人、国家公務員・地方公務員といった公務員になる人、聾学校・盲学校等の教員、あるいは民間企業に就職した人もいますけれど、支援を申し出た学生があ

まり多くなかったということもあるのかと思いますし、あるいはアクセシビリティセンターのほうで丁寧に対応されたということで、ほぼ希望する進路が実現されているという状況のようですが、いろいろお話を聞いておりますと、やはりキャリアセンターがもっと積極的に参加して、アクセシビリティセンターと共同で支援したほうがいいのではないかとということがわかってきております。

○キャリアセンターのキャリア支援プログラム

先ほども申しましたが、平成10年5月に学生就職センターが立ち上がりまして、平成16年にキャリアセンターに改組・拡充されたわけではありますが、キャリアセンターでは、キャリアというのを「生き方」というふう考えて、「キャリアを考える」というのは「生き方を考える」ということで、大学に入学してきた学生がどのような生き方を選択するか、それを支援するために必要な教育・指導をするということで業務に取り組んでいます。

まず、低年次生の場合には、どのような進路を選択するか、あるいはどのような職業を選択するかということで、通常の大学生活の中で自分に適した進路、あるいは職業を選択するにはどうしたらいいのかというガイダンスとか、あるいはキャリア教育の中でキャリアデザインのためのプログラムを実際に組み立てるための手法等の教育を行っております。

2年次生以上を対象にしたキャリア教育プログラムというのが本学の場合には2つほどありますが、現在のところ、受講率はあまり高くないのですが、センターとしてはそういう受講者の数を増やしていかないといけないと思っております。

3年次生あるいは修士の1年次生になりますと、今度は具体的に就職活動を支援するということになるわけでありまして。従来の学生就職センターの場合は、就職活動の支援ということで取り組んでおりましたけれど、キャリアセンターに改組・拡充後は、学生の進路・職業選択の支援も含めた広い意味でのキャリアデザインの支援、あるいはキャリアプランを組み立てるための指導も含めたキャリア支援に取り組んでおります。

現在のところ、キャリアセンターのほうで障害を有する学生の支援としてどんなことをしているかといいますと、まだ十分な取り組みができておりませんが、障害者のために求人情報等を提供していただいています。イフ総合研究所の「サーナ」のウェブサイトへリンクを張っております。障害を持つ

学生の就職活動にかかわる情報を提供するサイトは、実はたくさんございます。しかしながら、障害者の情報というのはある意味では個人情報ですので、企業側でもしっかり管理していただきませんと障害者に不利益な情報が漏れるということもありますので、我々としてもこれまで障害者の支援ということで毎年キャリアセンターのほうに説明に来ていただいていたイフ総合研究所は、非常に信頼性の高いサイトを運営されているということで、キャリアセンターとしては唯一、イフ総合研究所のウェブサイトにリンクを張らせていただいております。

障害者のための就職情報誌ということでは、株式会社イフが『サーナ』という情報誌を発行されています。それともう一つ、株式会社ジェイ・ブロードの『クローバー』という雑誌もありますが、これは無料で提供を受けているということで、一応就職情報誌としては『サーナ』と『クローバー』という2つの情報誌を配架しております。センターに来た学生には、そういうもので情報を入手できるようになっております。

あと、障害者と健常者を区別せずに就職ガイダンスとかセミナーを開催しております。障害者には特別の情報提供、あるいは指導が本来必要ではないかと思いますが、残念ながらキャリアセンターではそういう取り組みが今できておりません。

それと、求人情報に関しては、「もみじ」により就職情報を提供しております。「もみじ」というのは、本学のいろんな学生の支援をする情報を提供するサイトなのですが、「もっと」「身近な」「情報」という言葉の頭文字をとった「もみじ」でして、広島県の木の「もみじ」あるいは「もみじまんじゅう」の「もみじ」ではないということをご理解いただきたいと思います。

アクセシビリティセンターと連携した就職相談、これはまだ現実には取り組まれておりませんが、今年度はこれからアクセシビリティセンターと連携していろんな取り組みをしたいと思っております。

○キャリア教育の取り組みについて

本学で取り組んでおりますキャリア教育というものは、大学に入ってくる18歳の学生諸君に対して、将来の人生設計をどのように考えるのか、それぞれ個々人が生き方をどのように選択すればいいかということで、個人として、家庭人として、社会人、職業人、地域人として自分らしく生きていく

方法を考えるにはどうすればいいかというような情報を提供しております。

キャリアプラン、あるいはキャリアビジョンを考える際には、自分の将来の夢、あるいは目標を考えて、現在の自分の立場から考えて何をすべきかということを常に考えさせるようにしています。学生諸君は将来の自分の目標とか夢を持っているわけではありますが、それに縛られた就職活動をしますとなかなかうまくいかないわけでもあります。企業は、むしろ現在学生諸君が身につけている能力、専門性、適性、これらを見た上で内々定を出すかどうかを判断しているわけですので、学生諸君は自分の目標とか夢というのを持っているわけですが、現在できることは何かを考えて、このギャップを埋めるためにこれから何をしていくか、大学4年間で自分の夢をかなえるためには何をすればいいかを常に考えるようにということで指導をしています。

企業はいろんなキーワードでおっしゃるわけではありますが、グローバル化とか高度情報化、あるいは少子高齢化、創造・革新という21世紀のキーワードがありますが、これに対応する人材ということで、自ら考え、行動することのできる人、あるいは情熱のある人、状況分析、企画、提案、課題解決ができる人材というふうに、若干企業によって言葉は異なりますが、やはり自ら問題を解決していく、いろんなことに挑戦する、そして成果を出すことのできる人材が求められているということを常に学生諸君に伝えるようにしております。

○社会が求める人材の育成を目指して

企業が求める人材像ということで、経済産業省のほうは「社会人基礎力」というのを主張しております。厚生労働省のほうは「就職基礎能力」と言われておりますが、最近では経済産業省の「社会人基礎力」のほうがだんだんポピュラーになってきておりますが、学生諸君の前に踏み出す力、要はアクションができるかどうか、考え抜く力を持っているかどうか、チームで働く力を持っているかどうか、こういうところを企業は見ようとしておられるわけでもあります。

大学としては、こういう社会が求める能力を身につけるようにということで、実は平成18年度から到達目標型の教育プログラムを取り入れております。現在、大学のホームページのトップページに到達目標型教育プログラムの説明が載っております。全学部の全学科でそれぞれ到達目標型教育プログラムを動かしております。現在、広島大学では67の教育プログラムが動いております。これは

それぞれの各学部・学科で到達目標を設定して、それを卒業時まで達成することを目標にして教育に取り組んでいるところでございますが、今日は高校生にオープンキャンパスのときにお配りしているパンフレットのコピーを配布させていただいています。高校生諸君は将来の自分の夢を持っていると思いますが、現在の高校生の立場から考えて、将来の夢を実現するために広島大学で提供している67のプログラムでその夢をかなえることができるかどうかを確かめてもらうために、それぞれのプログラムごとに将来の進路、考えられる進路等について書いているところでございます。

入学から卒業までの主な流れということで、これは各学部のほうで、社会から求められる人材を育成するプログラムということで動かしておられます。従来の授業科目の成績評価だけではなくて、プログラムごとに到達目標の到達度の評価を、「非常に優れている」、「優れている」、「基準に達している」というふうに能力評価をしております。

具体的にはどういうものかわかりにくいと思いますので、私自身が所属しております経済学部の昼間コースでは、例えば「現代経済プログラム」というのを動かしているわけですが、学習成果として、「知識・理解」というのを設けまして、教養教育とか専門基礎科目において、自主的に学習し適切に自己表現する能力、情報処理や情報の受発信に関する知識、異文化を理解のために外国語を活用する能力、専門分野の学習に不可欠な基礎知識などを身につけるように授業を行っております。さらに、専門科目では、例えば「経済理論、統計学、計量経済学に関する知識を応用して、数理的分析を展開する能力」というふうに、それぞれの科目を履修することによって身につけることのできる能力とか技能というのを対象にして、さらに「実践的能力・技能」としては、3年次の演習で具体的に身についた知識に基づいて、それを応用して実践的に生かせる能力が身についているかという評価をすることになっております。そして、最終的には「総合的能力」ということで、卒業論文を4年生で書くわけですが、社会から求められているコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、あるいは問題発見・課題解決能力を卒業論文指導を通じて評価をして、最終的に社会が期待するような人材として到達しているかどうかを評価した上で社会に送り出すというふうになっております。

この到達目標型教育プログラムというのは、実は新しい教育方法ということで、ある意味ではビジネスプログラムということで特許を申請中ということで、従来あまりこういう詳しい内容が公開されていませんでしたが、少し積極的にこういう到達目標型の教育プログラムを公開することによって、

社会の要請もお聞きしようというふうになっております。

教育の中身については、特に障害のある学生諸君にはアクセシビリティセンターと各学部が協力をして、社会から期待されるような分野に就職できるような能力を身につけるということで、各学部に頑張ってもらっているわけではありますが、我々キャリアセンターとしては、学生が身につけた能力や、こういう教育を受けていますということを各企業にお知らせした上で、広島大学の学生が自分の希望するところに就職できるように支援をしていこうということで頑張っているところであります。

今年度、景気が非常に悪化してまいりまして、就職事情が厳しくなることが予想されておりますが、我々としては、それぞれの学生が希望するところに就職できるように、いろんな相談に対応する努力をしようとしています。キャリアセンターとしても、ある意味ではこの到達目標型教育プログラムがうまく機能すれば、それは社会が求める人材を育成するというプログラムでありますので、必ず企業から評価していただけるのではないかと考えております。まだ十分な情報が出ていなくてわかりにくいところがありますが、広島大学のホームページのトップページから各学部における到達目標型の教育プログラムの中身が見られるようになっておりますので、この機会にそういうものをご理解いただきたいと思っております。

それでは、私の話はこれで終わりにさせていただきます。